

ディスコグラフィー収録

ディスコグラフィー【2019No.139】(HP 収録)

分類：CD

作曲家：作者不詳他

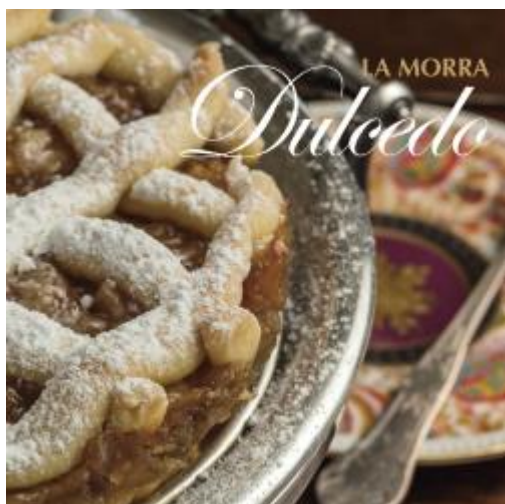
曲名：ダンツァ・アモローザ-トロット他

演奏：西山まりえ(中世ハープ)/コリーチ・マルティ(クラシビバルム)/ミハウ・コントコ(中世リュート)

発売：OMF

No. : KCD-2072

概要：



■収録曲

- 1 ダンツァ・アモローザ-トロット 作者不詳
Dança amorosa-Troto: anonymous
- 2 待てば希望が慰めてくれる ジャコミ・サンレーシュ
En attendant esperance: Jacomi de Senleches
- 3 頑なに拒まれて 作者不詳
Aspre refus: anonymous
- 4 若々しいお姿をなぜ隠すのですか? 作者不詳
Che ti zova nascondere: anonymous
- 5 愛の神に願う フランチェスコ・ランディーニ
I' priego amor: Francesco Landini
- 6 僕は一人で歩いて行こう マッテオ・ダ・ペルージャ
Andray soulet: Matteo da Perugia

- 7 シャンソネッタ・テデスカ 作者不詳 M. ゴントコ編曲
Chançonetta tedescha: Tenor: anonymous, Superius: M. Gondko
- 8 慈悲深い星 ヘンリクス・ヘスマン・デ・アルジェントラート
Stella pia: Henricus Hessman de Argentorato
- 9 なんと美しきおとめ／私の心 ヨハネス・アラヌス
O quam pulchra puella/Min herze: Alanus
- 10 平和／ヤコブ／恐ろしさ ペトルス・ヴィルヘルミ・グルデンツ
Pax/Iacob/Terribilis: Petrus Wilhelmi de Grudencz
- 11 女王の楽音 フランク
Quene note: Frank
- 12 私の心の喜びよ ジョン・ベディンガム
Myn hertis lust: Johannes Bedyngam
- 13 新年よき日のよき贈り物 作者不詳
Auxce bonyour delabonestren: anonymous
- 14 私の悪口を言いたい者は 作者不詳 (ジル・バンショワ原曲)
Qui veut mesdire(Qui vult messite): anonymous after Gilles Binchois
- 15 彼はあなたのために戦うだろう／武装した人 ロバート・モートン
Il sera pour vous/L'omme armé: Robert Morton
- 16 貴い方、あなたは私をこれほどに焦がれさせる ブルゴーニュ公シャルル豪胆王
Ma dame trop vous m'esprennes: Charles the Bold, Duke of Burgundy
- 17 大いなる憧れ 作者不詳
Gross senen: anonymous
- 18 古いレオンチェッロ ドメニコ・ダ・ピアチェンツァ
Lionzello vecchio: Domenico da Piacenza
- 19 プティ・リアン グリエルモ・エブレオ・ダ・ペーザロ
Petit vriens: Guglielmo Ebreo da Pesaro
- 20 盲目の人は色を見分けられない アレクサンダー・アグリコラ
Cecus non iudicat de coloribus: Alexander Agricola

■レコーディング

録音会場：山梨市花かげホール

録音日：2018年4月25日-27日

録音フォーマット：24bit/192kHz

形態：CD・配信

ラ・モッタのドウルチェードというタイトルのCDです。

OMFのサイトの紹介記事を引用して転載します。

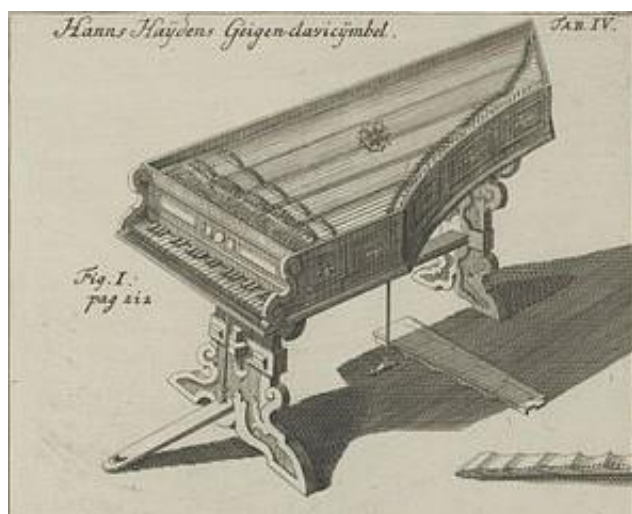
「—甘き音楽 様々な弦の融合による魅惑の世界—

当時良質な音楽を記述する際に用いられたラテン語『dulcedo』 = 『sweetness』 = 『甘美』。

最古のチェンバロと言われるクラヴィシンバルム、中世リュートと中世ハープは独特の繊細なる音色として人々に愛されていました。

このプログラムではその魅力的な音の宇宙を追求。」

Clavicymbalum というのは聴きなれない楽器ですが、チェンバロの原型みたいなものらしいです。この **Clavicymbalum** と中世ハープと中世リュートで演奏される音楽ということになります。ネット上から見つけた写真を添付します。



中世ハープは、[西山まりえの公式 HP](#) の楽器紹介の欄に解説があり、現代ハープとの違いが分かります。



中世リュートは、ルネサンスリュート、バロックリュート、テオルボのうち、もっとも古いルネサンスリュートの前のタイプで、アラブ圏の楽器であるウードの流れを引いているものようです。

演奏されている曲は、古いスペインの音楽のようで、音量の小さいこれらの楽器を響きの良い環境で録音されています。

Clavicymbalum はバッハやフランスバロックの演奏で聴くチェンバロと違い、音域は狭いようで、一般のチェンバロのように洗練されたというよりは、素朴な味わいがあります。中世リュートは、バロックアンサンブルでよく聴くテオルボより、こじんまりした音ですし、中世ハープは、現代ハープとまったく違う音色で、どこことなくアイリッシュハープに似ています。

これらの素朴で懐かしい音のする楽器の奏でる音楽も、また素朴で、後世のスペインの音楽を想像するとまったく異なる世界を広げてくれます。曲によっては、中世の古謡のようであったり、舞曲のようであったり、どこことなくアラブの音楽のような旋律も見え隠れします。

できるだけ原型に近い楽器を用いた、このような演奏は音楽史的にも価値あるものと言えます。

以上